



連日の晴れ（暑さ）の合間の雨のおかげでほっと一息、グラウンド状態も最高です！

「楽しむ」ための条件

運動会の練習も佳境に入ってきました。5年生に目を向けてみると、台風の目の練習試合をやっています。勝ったチームのあるお子さんの声に、ちょっと聞き耳を。

「もっと、ジャンプのタイミングを合わせて！」

「端っこの人がもっと速く走って…真ん中の人はしっかり握って！」

えっ？勝ったのに喜ぶどころか、なんだかヒートアップしている??

「喜んでばかりはいられません。もっと練習して、完璧を目指さないと」
なるほど、納得。



運動会のことを「楽しい」や「楽しみ」と表現する子どもたちがいます。ただ、運動会（含むスポーツ全般や勝負事）を楽しもうとするお子さんに限って、簡単には運動会（の練習）を「楽しい」とか言いません。なんでだろう。

どうやら、「楽しむための条件」というものがありそうです。その条件は、どうも単純に“勝てばよい”というわけではなさそうです。

勝負ごとに勝つためには、やはり努力が不可欠。先に述べたように、作戦を実行しようとするときには、いやでも練習しなければ作戦成功（≒勝利）には至りませんよね。あたりまえだけど、でも、努力は非常に面倒だし、きついし、いやなことが多い。よほど意識を高く持たないと、努力は実行できない。その上、暑いし、おなか減ったし…あ～もう、どうしよう。そんな時には、「なりたい小さな自分」を見つけてみたい。つい、「なりたい自分」を見つめすぎると、大きな夢だったり実行不可能な高いハードルを設定しがちだったり、割と失敗することが多い（[学校通信 No.4「今度こそ！…」](#)をご参照ください）。

だから「なりたい小さな自分」。もっと、身近なところ。そのお手本は、今頑張っているお友達、先輩、後輩も参考にできそう。あの人、かっこいいなあ～みたいな人たちです。こんな「なりたい小さな自分」であるお手本のお友達は、ちょっと先立って「なりたい自分」になりたてのほやほやです。どうやって「なりたい自分」になったのか、もしかしたら私たち教師よりもよく知っているかもしれません。だって、ほやほやなんですから。

あの大谷翔平選手は、高校1年生の時分、なりたい自分（プロ野球選手）になるために“マンダラチャート”を創っていたと、始業式の日直理先生が教えてくれました。真ん中に最終ゴールである「なりたい自分」を書き、その達成のための8つの要素、さらにその8つの要素に必要な8つの具体化した項目がびっしりと書かれています。もちろん、なんでも一足飛びにはうまくいかないもの。とはいえ、大谷選手のように具体的な目標を！と言われてもそれがよくわからない。だから、身近なお手本が必要です。その身近なお手本＝友達や先輩の姿こそが「なりたい小さな自分」であり、具体的な目の前の活動目標といえそうです。

勝ち負けよりも大切なことは努力をすること、その努力の過程にこそありそうです。